

2012年9月フランスに蒸気機関車を訪ねて

9月7日（金曜日）

鯉田駅に妹に送ってもらい列車にて博多駅へ、タクシーで福岡空港着。例によって大韓航空にて出発、インチョン空港へ向かう。

土曜日朝の福岡インチョン間の席が取れず前日にインチョン入りとなったがおかげでインチョン9：30発AFのコードシェア便に乗れることになった。

インチョン空港に22時過ぎに到着、ホテルの送迎バスが既に終了していたのでどうやってホテルへ向かうか問題であった。空港のインフォメーションにて尋ね、シャトルサービスバスにてハイアットホテルへ行きそこから徒歩で行きなさいとのこと。二つ目のバス停と教えてくれた。

シャトルバスのバス停で待つがバス料金は？ウオンは持っていないので心配になる。どこにもフリーサービスとは書いてないようであったがバスがくるとフリーサービスと書いてあり安心する。

ホテルにはすぐにたどり着けた。チェックイン後早々にシャワーを浴び、横になる。NHK-BSをみながら就寝。

9月8日（土曜日）

6時には起床、夜間降っていた雨は上がっていた。朝食はついていないので7時15分にチェックアウトをしてホテルバスにて空港へ向かう。すぐに出国し、KALラウンジへ向かう。エアーフランスの飛行機なのでゲートがシャトルレールサービスで移動する新しいターミナルビルであった。初めて利用した。

KALラウンジにて朝食を軽く済ませ写真などを取って9時になったので搭乗口へ向かう。エアーフランスの機材を写真に撮って搭乗。やはり大韓航空機とは異なる雰囲気である。

定刻5分ほどすぎてプッシュバックが開始、長い時間を要してパリへ向かうのだ。

エアーフランスのサービスは大韓航空と違いテンポがゆっくりである。離陸後1時間はたっていないと思うがやっとビデオサービスが始まった。飛行機の航路図の表示は飛行機の機影が大きく表示されて感じが良い。

で、ビデオを見ようと番組を探すと何と日本語の番組がゼロ！ではないか。なるほど韓国発のフランスの飛行機なのでフランス語、英語に韓国語対応の番組ばかりであった。これには困った。この長時間の移動中に最新作の映画が数本見られるのが楽しみの一つなのに。

一方、食事のサービスもゆっくりで、北京国際空港を過ぎて食事のサービスが始まった。食事の内容も少々簡素な内容でデザートも少なかった。ビジネスクラスの席は多く。利用者も多いので少々手抜きサービスなのだろうか？

食事後も窓締めての午睡タイムはなくバイカル湖を見ることが出来たのは今回が初めて嬉しかった。その後はさすがにしばらく寝てしまった。目が覚めるとウラル山脈付近まで飛んでいてその後日記を書く。今回はAirMacを持参しているが軽いのは助かる。

しばらく本を読み、居眠りを繰り返して過ごす。気がつくとバルト海上空でスウェーデンの上をかすめてドイツ上空へ入り、フランスへと移動する。ドイツ上空からフランス上空、パリに着陸するまで丘

はあっても山はない。一面農地であり、川沿いに大きな都市があり、工場などが少し見られる。農作物は十分だろうと思う。

パリの着陸に際しては CDG を左手に見てパリ上空まで旋回しての着陸でこの旋回は初めてだった。到着ターミナルが一番はずれで、歩いて、トレインに乗せられ、税関のパスポートチェックに並んで、歩いて荷物受取場所にたどり着くと既に手荷物が回っていた。

ニース行きの出発場所を探して同じ第2ターミナル内を歩いて歩いてやっとたどり着くとランディング後約一時間がたった。早速（たずねたずねだが）チケットカウンターへ並びやっとカウンターにたどり着くと「満席です！」で終わり。

約3時間半ある。まずは荷物をチェックインして楽になろうと思ったが自動手荷物受付になっているではないか。やってみれ！と並ぶとなんと日本語の案内があるではないか！！いかに日本人が多いかを示しているのだろう。

無事にチェックインをすませターミナルに入る。とりあえず16時と早かったがニースへの移動とその後を考え、おやつと夕食をかねてサンドイッチを食べた。コーラと合わせて約千円とは高いなー。

本を読んであくびをして過ごす、日本時間午前1時になっている。やっとニース行きに搭乗、30分遅れで薄暗くなった CDG を離陸。ニース空港着陸時は真っ暗で海岸沿いの街頭など夜景が大変きれいであった。

機内に日本人のグループが居たが到着時にガイドが荷物の世話をしていたのが羨ましかった。受け取った荷物を持って市内行きバスの乗り場を探す。時刻を見ると最終まで後15分ほどでラッキー！乗車券4ユーロを買って乗車するが「地球の歩き方」には書いてない。最も車内でも購入は可能であった。

バスは結構飛ばしてニース国鉄駅前に到着。持参のホテル予約表の地図を頼りに探す縮尺が小さくよくわからない！ついに八百屋さんに訪ねてたどり着いた。荷物を広げると日本時間朝の5時！眠いのでシャワーも浴びずに就寝。数回目が覚めながら朝の5時までなんとか寝ていた。

9月9日（日曜日）

起床後はPCで和風本家を聞きながらシャワーを浴び、荷物の整理をし、PCのメール設定ができていなかったので一生懸命記憶たどりに何とかメインメールが受信できるようになった。

7時になったので食事に降りてゆくと少し待て、とのこと。先に駅でバリデートを済ますことにして駅へ歩く。地下道が有って結構近かった。バリデートに並んでいると時間のかかること！約30分並んでやっと済んだ。駅では時間がかかる！を覚悟し、時間の余裕が必要である。

ホテルで朝食後（パンとコーヒーとオレンジジュースのみ）すぐにチェックアウトしてプロバンス鉄道のニース CP 駅へ向かう。地図上の駅の場所が工事中で駅がわからず朝市の人に駅を訪ねたがステーション（フランス語でゲア）が通じなかった。

50分ほど前に到着したのだが駅は閑散としている。切符売り場が8時45分には開くと書いてあるのでじっと待つ。やがて切符売り場に行列ができる。パンフレットには8時50分出発の観光列車が有るのだから乗客は集まるはずである。

やっと出札が始まるが予約客に切符が販売される。やっと順番になったが蒸気列車 (TRAIN VAPEUR) は満席とのこと。私が調べて通常の列車の出発時刻 8 時 5 2 分発が 9 時 2 5 分に変更になっておりそちらのチケットを購入。ところが蒸気列車接続の観光列車と通常の列車が一本化された用で観光用の新型の車両に乗って NICE CP 駅の約 5 分遅れの発車となる。

発車後列車は市街地を短いトンネルいくつか抜けながら高度をあげて行く。徐々に住宅地が減り郊外になると川沿いを走るようになり、峡谷を過ぎると開けた谷間の集落、また峡谷を繰り返すようになる。横の山々にはすごく褶曲した地形が現れている。景色は素晴らしいが山肌の違いはあるが峡谷を走る日本ではよく見かける車窓である。



乗車できなくなった蒸気機関車の撮影は時刻を検討し、**Puget-Théniers** での追い越しを撮影後に次の駅 Entrevaux で下車して SL の到着と出発を撮影し、次の列車まで Entrevaux で昼食と観光をして時間をつぶすことにする。



SL を撮影は天候にも恵まれ何とか無事に終了しマー何とか満足できた。Entrevaux は駅前からみると薄汚れた町並みで、街の裏山には大きなお城？があるローマ時代から栄えた街で観光地として知られており、私の乗ってきた列車にでも Entrevaux での下車する観光客が多数いた。

街中へ行くが入り口には門が有り、吊り橋を渡って入るようになっていた。市内の道は狭く、坂道が多く、階段も多いので大きな荷物を持つての移動は大変！街中で昼食ものんびり済ませるがそれでもせいぜい 1 時間半しかかからなかった。



駅に戻り日記を付けて過ごす。日記を終えてしばし長椅子で寝てた。駅構内の掲示物を見ていると明日の運行中止の知らせがあったが今日ではなくてよかったな一と思った。やっと時間となり 14 : 29 の 2 両の列車がほぼ定刻にやってきた。車内は結構込んでいた。Annot までの景色はすばらしかったが勾配が結構きつく SL は大変だろうなと思った。

Annot の駅では SL 列車が止まっていたので早速撮影開始。ビデオとカメラと大忙しである。汽笛が再三鳴って何回もさー出発か！と思わされた。無事に出発風景を撮影終えて本日の主な予定は終了である。SL 列車には乗れなかったが無事撮影できて満足である。やはり撮り鉄なのだろうか？

駅からホテルを探して下る。何せ印刷してきた地図がとんでもなく広範囲の地図で全く参考にならない。が、すぐに見つかり早速チェックインする。ホテルの窓から列車の走る石橋が見えるではないか！時刻を見ると 30 分ほどで列車が通過するではないか。荷物を置くとすぐに出かけた。



Annot 市内は先ほどの Enrevaux の街と同様に石作りの狭い坂道の多い街であった。その中を抜けて石橋の近くにたどり着き何とか撮影場所を確保する。しばし待たなくてはならない。

その間にふと、先ほどの列車運行停止が思い出された。そうなのだ！明日朝の列車にてこの地を離れるのだ！先ほどは思いつかなかったのだ。心配しながら列車の通過を撮影するが今朝乗ってきた観光用の列車の車両がやってきた！ラッキーであった。

すぐに駅へ向かう。やはり赤い斜線の枠で書かれ掲示があり、明日乗車予定の Annot から Digne 間は列車がどうも動かないようである（何せフランス語のみなので見当ではあるが）、駅員は声を掛けるも不在である。さらに文書を見てみると朝 5 : 5 6 発は運行されるようなので（もちろん推測）それに乗ることにする。

もし動かなければ同じく朝一で Nice へ戻れるので早起きでの対応とする。と、ここでザックのパソコンを入れるチャックが開いているのに気がつく。なんとホテルの宿泊確認証やスケジュール表などを入れた袋がないではないか！！

慌てて歩いた道に戻ることにする。なければどうやって送ってもらおうか、メールで送ってもらえるだろうかなどと考えながらとりあえずホテルに戻ってみるとフロントの横の椅子の上に有るではないか！よかったー！！チェックイン時に置き忘れていたのだろう。

時間があるので再度 Annot 市街地へ戻り撮影を始めると今度はメインカメラの電池がなくなった。トラブル続出である。予備カメラで撮影を済ませてホテルへ戻る。早速電池の交換と充電を行うとともに PC でのメールチェックと日記の記載を開始する。

明日朝は起床とともに出かけるので寝る前にパッケージをすませなくてはならない。夕食後にはチェックアウトも済ませてしまう予定。

シャワーを浴び少々洗濯をして日記を付け、荷物を片付けると 20 時になっていたので夕食へホテルのレストランへ行く。老人の先客あり、「ボンソワール」と挨拶する。

食事は定食を注文、赤のグラスワインを合わせ 30 ユーロであった。周りの客も同じメニューを頼んでいるようで同じペースで料理が出てきた。一皿目がパスタでおいしかったが結構ボリュームがある。二皿目は鶏肉がメインでピーマンの肉詰めもあった。この鶏肉の固いこと！焼き過ぎも良いとこでカチンカチン、もう少しデリケートに焼けないのだろうか！デザートは桃をシロップで煮て熱かったがオレンジを利用するクレープのアレンジだな！と思った。

夕食を済ませグラスワイン一杯で良い気分になって部屋に戻ると 21 時半は過ぎていた。本を少々読んでベッドへ入る。意味不明のテレビを見ていたらいつの間にか眠りに引き込まれていたものでテレビを切って就寝。夜中に数回目が覚める。

9月10日（月曜日）

携帯の目覚ましの設定を一時間間違って午前4時にタイマーがなった。その前からちょこちょこ目が



覚めていたのだがあきらめて起きだす。荷物最終的に詰めても時間が余るので意味が分からなままに若い人の恋愛もののテレビを見ていたがヌードの場面でこちらの映画も微妙に隠してあるのがわかった。

5時20分になりホテルを出る。星空のもとを駅に着くと Nice 行きと Digne 行きともに乗客が結構いた。Nice 行きは例の観光列車で3両連結にて停まっていたが通常列車の運用になっているのだろう。

定刻に出発、暗いためか徐々に遅れながら峠を越えると結構勾配のある坂道を延々と下ってゆく。所々の駅で乗客（若くて大きな荷物を持っている）が乗ってきた。

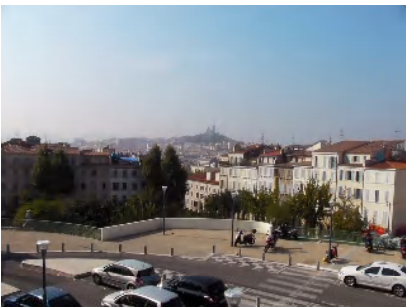
明るさが徐々に増し、すっかり夜があけた7時45分に国鉄との共同駅である終着駅 Digne に到着するが国鉄の線路は草ぼうぼうで列車の運行は中止になっていた。

若者たちはグループの様でまとまってバスに乗って行った。駅舎内に国鉄の窓口があったので Aix-en-Provence TGV での乗り換えの TGV のチケットを依頼するが少々手間取り、バスに間に合わなくなったのであきらめた。

バスに乗ると話が通じず一端降ろされそうになったので慌てたが無事に発車となった。その後約2時間半、所々で乗客を拾いながら走るが居眠りをしていた。やっと終点 Aix-en-Provence TGV 駅に着くと乗客は3/4は詰まっていた。

まずは窓口に行きマルセイユ行きの TGV の座席指定券を手に入れるがフランスパスでただの列車は夕方まで満席、次の列車は2等車で5.4ユーロの追加で良いとのこと。了解する。

朝から食事を摂っていないのでスナックを買って乗車するが10分も走ると海が見えてだし、間もなく Marseille 到着のアナウンスが始まった。近いものだ。



Marseille の駅ではすぐにサンドイッチとオレンジーナを購入。朝食兼昼食とするがこの売店で日本人の二人のお姉ちゃんに遭った。食後今後の予定を携帯電話で調べるがパソコンと同じ画面で調べられるので楽ではあるが字が小さすぎて見にくい。

何とか目的の路線を乗るのが見つかり、最初の予定の逆回りですぐは Miramas へ向かう。そこから海岸沿いをマルセイユへ戻ってニームへ向かうことにする。12時10分発に乗車早速日記を記載する。

マルセイユの駅を出るとまもなくして港が見えるが大きな客船が泊まっていた、しばらくするとマルセイユ空港が見えだすが大きな汽水湖に滑走路が延びているので着陸はこわいだろうな。予定通り Miramas にて乗り換え目的の海岸線の路線へ向かう。

乗客は結構多く、路線も複線で列車の運行回数が多いようである。やがて架線のある複線が右へ分岐するとこちらは架線が無くなった。なんとディーゼルカーだった。そう思って音を聞くと確かに！。

やがて海岸線が近づくと工業地帯で石油タンク車がいっぱい止まっている、大きなクレーンも見えたりするので貨物列車が多いのだろう。左側に小さな湖が見えたが色が赤かった。おそらく海とつながっ

ておりプランクトンの異常発生では？今の時代に産業廃水とは思われないから。

左に大きな湖が現れたが空港のある汽水湖でしばらく走ると線路が右カーブにさしかかり左前方には大きな吊り橋も見えると海とつながった運河？を越える鉄橋を渡るのだった。運河の両岸も工場地帯だった。

峠を越えるときれいな海が見えだし、絶壁の上を走る景色となって来た。谷間、谷間に小さな部落と港が有り、別荘地帯なのかヨットやボートが泊まっている。同じような景色を繰り返しているとマルセイユの街がみえだした。大きなフェリーも数隻泊まっていたがナポレオンが生まれた島（コルシカ島）に向かうのだろうか？

マルセイユの駅で40分ほど待ってリヨン行きの昔は優等列車に使われたのだろうかと思わせる客車列車にてアビニオンへ向かうが眠い！しばらく寝てしまった。アビニオンで乗り換えニームに17時10分ちょっと過ぎて到着するも車内アナウンスでニームを聞き取りきれない。用心、用心。

さて、バス乗り場を探さなくてはならない！17時30分発なので余裕はあるがさっぱり見当はついてない。とりあえず駅正面にでる左と正面にバス停が並んで乗客があふれている。荷物を引っ張って大急ぎで一回りするが無い！後10分しかない！そこにバス会社の職員らしき人がいたので訪ねる駅の裏側と教えてくれた。

急いで駅裏に向かう。すぐ前に大きなバス乗り場が有りいっぱいバスが停まっている！どれだろう！案内所は見当たらない！どうやって見つけるのだろうか！が、大きめの電光掲示板が有り、17時30分発で探すと乗り場15番に St Jean du Gard 行きが有った！（！の使い過ぎは緊張の現れ）人ごみをかき分け何とか到着する。これに乗り遅れたらタクシー代は1万円では効かないだろう。

運転手より乗車券を購入するが乗車予定時間1時間半なので20ユーロを差し出すと何と1.5ユーロ！！どうなっているのだろうか？購入した切符は乗車口で機械に通さなくてはならない。

定刻にバスは発車するがちょうどラッシュ時間！これはすごい。道路工事とも重なっているようだが時刻表で4分が15分かかっていた。市街地を出るとほぼ満席になっており、遅れは20分になっていた。バスは結構飛ばすが回復しないままであった。

いよいよ田舎道になり1.5車線の道を飛ばすこと！見通しの悪いところもおかまいなしで対向車が大型だったら間違いなく事故だろうと思う。途中の集落は中世の町並みそのままバス一台がやっとのくねくねした道筋であった。当然一方通行だった。これを繰り返しながら走っているとやがて開けた丘陵地帯にさしかかり遠くの山並みまで見通せるようになって来た。

山が近づくと線路後が所々見えるようになった。間もなくSL列車の折り返し地点なのでAnduzeあった。駅は注意していたがよくわからなかった。その後は谷間の道となったが車窓の左右に路線が見え、アーチ橋もいくつか見えた。写真に適しているなー、と思うが何せ足が無いのが残念。

薄暗くなってきた19時20分頃、20分遅れのままで終点に到着、乗客は数名だった。

さて、ホテルはどこだ。バス停の前に地図があったので確認して市街地を抜ける。目の前の山の中腹にホテルらしき建物が見えるのでそれをめざして坂道を上りだすとホテルの案内板があり、さらに車道を上る。急いで歩いて約20分で到着するがすっかり薄暗くなっていた。

ホテル入り口横のテラスで食事が有っていたので「ボンソワール」と挨拶をして入る。チェックインは名前を言うだけ済み、バスで来たというときれた顔をしていた。で、夕食をと言うと、え！！もう終わったよ、もう迷惑だな〜、と言った感じであったが空腹だからお願い！と粘る。冗談ではない。

部屋に案内してもらい、1時間後に夕食を、となった。また明日は夕食が提供できないと告げられたがそんなホテルが有るのかよ！と思った。すぐに洗濯とシャワーを済ませ時間に夕食へ行く。食事はハムや肉の入ったサラダとメインが何だろうか温野菜に野菜詰めの小鳥（ムクドリ？）の丸焼きであったが食べ憎いこと。その後チーズの固まりとチョコレートケーキのデザートで終わりだった。そうそう、グラスワインを注文すると怪訝な顔をして無いとのこと、ビールを頼むとなぜかオランダのハイネッケンの小瓶が出て来た。

満腹にはなって部屋に戻り、荷物を少々片付けて床に入るがすぐに寝てしまった。

9月11日（火曜日）

よく寝たー！と思って目が覚めると5時だった。TVも無い部屋なのでうつらうつらして6時に起床するがまだ真っ暗。日記を書いていると7時40分で明るくなっていたが薄曇りのようである。

日記を書き終えたら8時15分になっていたの朝食を食べに行く。パンとジャムにコーヒーとミルクそれにヨーグルトの朝食である。昨夜の夕食のメンバーも朝食を摂っていた。もちろん「ボンジュール」である。



朝食を済ませると早速出かける。フロントが閉まっていたので鍵を持って出かけた。まずはツーリストインフォメーションに向かうがバス停のすぐ近くで約18分かかったのので昨夜は結構急いで歩いたのだ。ところで途中の街中は朝市が有っていて多数の露天が有りベッドまで売っていた。商品ではカラフルな石けんや香草の販売が有っていたのが目についた。

バスの時刻表を探すと13時5分のバスが有りそうである（曜日での運行に違いが有りフランス語なので意味が分からないので）。これだと1便の蒸気列車にて往復して撮影ポイントを探し、バスでその場所へ向かうことが出来そうなのが解ったので駅へ向かう。

10時前には駅に着いたので駅近辺をうろつくとプラットホームには客車が、横の側線にはDLが留置してあった。線路の先の方に機関庫が有りそうであるがイギリスのように線路内を歩くと罰金の注意書きが無いのでかまわず線路沿いに歩く。やはり機関庫が有ってかすかに蒸気音がする。回り込むと先客がSLの写真を撮っていたので機関車の回りにいた職員に撮影の



了解を取って機関車の撮影を始める。石炭の積み込みも行われていた。

ついに機関庫内まで入り込み、ここでも「ムッシュ」と言ってカメラを見せ、遠慮なく撮影をする。中には大型のテンダー型機

機関車が整備中であった。厚かましくなったものだ。ターンテーブルが見当たらないので行きが逆位で帰りが正位での運転と思われた。一通り撮影を済ませると駅へ戻った。



10時30分に駅の改札が開いたので早速乗車券を購入するがフル！と言って断られなかったので安心した。横の売店をのぞいて列車に乗り込む。進行方向どちらが良いのか判らないのでとりあえずオープンデッキに席を確保する。結局乗客が少なく、右に左に動けたのだった。

11時定刻に発車、ガラガラである。さすがに場所がへんぴで車であるにも少々不便なためだろう。おかげで撮影する者にはありがたかった。切符と一緒にもらったパンフレットの地図と景色を確認しながら撮影ポイント探しながら、写真はどんどん取りながらである。

やがてこの列車は止まらないが目の前にバス停がある旧駅（THOIRAS GARE）を通り過ぎると間もなく石橋を、渡るではないか！川の水も少なく中州へも渡れそうである、バス停も近いのもってこいである。第一候補である。



その後石橋を数回渡り、景色は良さそうのところがあるが民家は無くバス停がなさそうであきらめる。レンタカーで来れば撮影場所は広がるのだが！！

途中駅の Bambauseraie は名前の通りに駅横に竹の庭と販売所があった。大型バスも止まっており終点は数分先なのに乗客が結構乗って来たので驚いた。

発車後間もなく鉄橋を渡り、トンネルをくぐると終点の Anduze で乗客が多数待っていたのでまたまたびっくりである。そこそこに乗客の入れ替えがあり少しは乗客が増えたようであった。その間に機関車の入れ替えがされたが私は帰りの撮影を考えた席の確保にて撮影には移動できなかった。

帰路は正位でも運行なので張り切って撮影しなくてはならない！で、カメラの設定を確認するとなんと撮影スピード優先にした際にシャッタースピードが1/10で固定されていた！！これだとすべて写真はボケてしまっているだろう。逆位なので良かった！気がついて良かった！である。1/320に変更する。



安心して正位での列車を後方から撮影しながら先ほど第一候補の撮影ポイントへ着くと川縁に行ける道があるかを探しながら出発地 St Jean du Gard へ戻って来た。SLの正面の写真を撮りたかったので急いで向かったが間に合わず機関車は切り離され一番奥へ進んで行った。するとそのままそこで水の補給と石炭の積み込みも始まった。

少し写真を撮ってバス停へ向かう。途中で昼食を済ませるつもりであったがレストランはどこも現んでいたので入るのをあきらめ市場でパンを購入。小さなスーパーで飲み物とサンドイッチとクッキーを購入し、インフォメーション横の公園の椅子で昼食を済ませた。

昼食を済ませバス停に行くと多数の乗客がまっていた。そこにバスの運転手？らしき人が来てバスはあちら、と案内しているのでバス時刻表を指差すとやはり私が思っていたのとは違うバス停を示してくれた。オンタイムにバスが来たので下車の場所（THOIRAS GARE）の念を押して、教えてくれるように頼んで乗車した。

5分ほどで無事に到着。すぐに見当をつけていた場所へ向かうがなんと枯れた川を道と思っていたのだ、そこは馬の散歩通路？になっているのか馬糞が多数落ちていた（フランスは結構馬がいて近くにも馬が放牧されていた）。



裸足になってズボンをまくり上げてぬるぬるした石をさけながら小石で痛い思いをしながら何とか川を渡り中州にたどり着いた。すぐにカメラとビデオを設置して撮影ポイントを決め、休むのに適当な日陰を見つけて座り込む。列車がくるのはまだ一時間近く先なのだ。

待つことしばし、列車がやって来たがなんと橋の上で蒸気の放出をするではないか！ラッキーである。連続して撮影したが写真の出来上がりが待ち遠しいことだ。行ってしまうと次ぎに引き返してくるまで約一時間また暇である。

何もすることが無いのでただ待つだけであったがその間に馬を連れた女性が石橋の下を行ったり来たりして川を渡っているのが見えた。おそらく渡りやすいのだろうから帰りはそちらに行ってみようと思った。



そろそろと思い準備をしていたが引き返して来た機関車の音がすぐ近くに聞こえたので慌てて撮影を開始する。汽笛をなかなか鳴らさないし、ドラフトの音も小さいので気がつかないのだ。連続撮影して一分経ただろうか？それでおしまい！である。待つは長し、通過は一瞬である。このために延々遙か日本から来ているのだ。

カメラや三脚を片付けて帰るのみである。石橋の近くで渡り、靴下でぬれた足を拭いて靴をはく。バス停まで戻ると15時40分。バスの予定時刻は16時25分である。目の前の旧駅に噴水があったので手と顔を洗うとさっぱりした。石炭の煤で顔が黒くなっていた。

バス停に戻り持参の敷物を引いて座り込んでバスを待つ、そこそこに日本車が走っているがベンツやBMWは少ないなーと思った。

待つことしばし16時25分を過ぎ45分に成ってもバスは来ない、やはりバスは無いのだろうか？と思っていたら通りがかりのアベックが声をかけてくれた。「Du GARDまで乗りませんか？バスは来ないからね」と英語で言ってくれた。最高の笑顔をしたことと思うがうれしかったー！！

で、車内で話していると私が日本から来たと言うと女性は突然日本語で「こんにちは」と日本語をしゃべった！なんと日本の鳥取県大山町に住んだことがあり、日本には20回ほど往復したことが有ることので挨拶と少々の会話が出来たのだった！！

日本語を思い出しながらで数字の一、二、三を言わせられたりしながら町まで載せてもらった。約5分間では有ったが感謝を込めて最後は強い握手とお礼と手を振って分かれた。助かったし嬉しかった。外人さんには声を掛けてあげなくてはとつくづく思う。

さて、夕食をどうするかであるが荷物を置きにホテルに戻っての往復は面倒だし、かといって五時前の夕食には早すぎるので昼間に買ったパンの残りも有るし、ワインでも買って帰ってそれで済ませようかと迷いながらスーパーに寄ってワインとジュースにお菓子と水を買って帰りはじめた。

軽く食べようかとのぞいたレストランがしまっていたので再び街中に戻り、非常食をかねてチーズとハムのパックを購入した。雷鳴が鳴り始め黒い雲が近づいて来たので急いでホテルへ向かうが坂道の途中で雨が落ちだした。少々ぬれただけでホテルにたどり着いたが結局雨はそのときだけだった。

煤で汚れ、汗をかいていたので早速シャワーを浴びてさっぱりして夕食を済ませ、日記を書きはじめた。今日も一日中いろいろなことが有ったので日記を書くのに時間のかかること！ゆっくりした日程で良かった。約2時間かかって日記の入力が終了したので、PCで日本のニュースを見るためにWiFiの通じるフロント近くまで出かける。

ニュースを少々チェックしたら眠いので部屋に戻り22時前だが寝てしまう。食後2時間以内の就寝が続く。

9月12日（水曜日）

4時に目が覚めたので例に寄って日記を記入する。あまりにも時間があるので全部をチェックすることが出来た。その後うつらうつらして時間をつぶし、ニュースのチェックを済ませ、8時過ぎに朝食へ行く。朝食はいつものようにパンとコーヒーが基本で、その後は荷物の整理である。

荷物を詰め終わると9時半を過ぎていたのでチェックアウトをして駅へ向かう。駅についたのは10時を過ぎたのですでに機関車は連結されていた。10時30分発なのに11時と勘違いしてゆっくりしていたのだった。

今朝もゆっくり機関車を撮影し、乗車する。発車後も昨日乗車済みの区間なので慌てずに写真を撮る。昨日撮影した場所ではドレインを吐くので注意していたらカーブしていて良い写真にはならなかった。



目的の Bambauseraie で下車、発車を撮影すると列車が折り返して来るまでしばらくゆっくりである。予定を過ぎること10分ほどして前向きの蒸気機関車を先頭にやって来たので待っている乗客を入れて撮影する。どんな写真が撮れただろうか？

Du Gard 駅での撮影を考えて乗り込んだ前よりの客車はいっぱい座ることはもちろん、窓の外の撮影も出来ない状況であった。

隣の車両への移動は出来ないようになっていて諦めて車内の人々を撮影する。これは楽しみである。

Du Gard に到着後は急いで先頭へ行き機関車の撮影を済ませる。昼食時間だが列車の遅れも有り、例のスーパーへ再び立ち寄りサンドイッチとジュースを買ってインフォメーション前のベンチで済ませバス停へ向かう。今日は昨日の様に朝市が有っていないのでバスは正規のバス停にすべて乗り入れて来てい

るようであった。

昨日乗ったバスのすぐ後に13時10分発のニーム行きがやって来た。数名が乗車する。例に寄って結構飛ばし、見通しが良いと90Kmで走っている。しかし、昨日のような無理な飛ばし方をしていないにもかかわらずほぼオンタイムでバス停を通過してゆくが昼間なので乗降客が少ないこともあるのかも。

さすがNimes市内に入ると道路工事の影響も有って10分ほどの遅れでニーム駅に到着する。一昨日慌てたバスターミナルを見るがよく電光掲示板に気がついたことである。見落としたら乗り遅れていたことだろう。

出札窓口に行き並んでパリ行の指定券を求めると例に寄ってフル！と言われる。追加料金10ユーロを払って指定券が手に入る。一応窓側で2階席を頼んだつもりであったが乗ってみたら一階席の通路側と全くの逆であった。フランス人嫌い！

指定券を手に入れた後時間があつたのでコーヒーショップにてブルーベリーのケーキとカフェオレをいただく。おいしかった。

定刻にやって来たパリ行きは2階建てであった。初めて目の前で見ただけで大きいなー。と思った。乗車したTGVは停車駅の少ないタイプの様であった。景色はあまり良くなく、遠くまで見通せるなーと思うと防護板(?)が出て来て邪魔をする。しかしスピードは速いようですれ違う時間はまさに一瞬である。新幹線より編成の長さは短いことも有るだろうが。またすれ違う間隔は長く、列車の本数は少ないようだ。もっともリヨンを過ぎたら増えるだろうが。

景色はほぼ同じような感じで丘陵地帯を走る。両側は耕作地が多いが時に森であり、高速道路であったりする。ニーム駅から2時間経つがノンストップである。どこまで停まらないのだろう。横に黒人の女性が座っているがたびたび電話がかかってくるのでうるさいなーと置いていたらついに向かいの席の若い女性が声をかけた。こちらでも車内では電話はマナーモードがマナーなようで車内に目をつぶった受話器のステッカーが至る所に張ってあった。少々やり取りが有って黒人女性がマナーモードに切り替えていたようだ、と置いていたらしばらくするとまた電話がかかって来た！

結局このTGVはパリまでノンストップであった。日本では東京大阪間がノンストップはおそらく考えられない。

到着したパリのリヨン駅が全く変わっていた。プラットホーム数が大幅に増えているように思えた。駅舎はそのまま残してあるがガラス張りの明るいスペースが出来ていたし、地下道も大幅に拡張したようで、地下にRERなる国鉄の地下鉄が出来ていた。

そのRERを利用して来た駅へ向かうことにする。切符は自動販売機にばかりである。空いている機械に向かい英語での操作を始めると、所詮一回券を買うので簡単だったが最後に硬貨を入れる場所が無い！何とカード専用の機械だったが、無事購入できた。

Dラインにのるので矢印に従って進むのが面白いことに複雑線になっていてプラットホームが1番線と3番線それに2番線と4番線がペアになっている。さて、どちらのプラットホームに降りたものやらわからない。通常のパリ地下鉄は終着駅を覚えておけば良いのだが表示がよくわからない。

南行きは駅名からわかったが北行きがわからない。表示されている駅名が地図で解らないのだ。結局

プラットホームを往復している間に列車の動きがわかり、ある駅名は何と次の駅が行き先だった。まさかパリ市内のど真ん中の地下駅で折り返し運転するとは思わずに遠くの方の駅ばかり見ていた。

二駅目の北駅で下車。広い！出口の案内と方向の見当をつけて歩く。相当深いところを走っているようでうろろうろしながら地上階にあがると記憶にある北駅の部分にでたがここも変わっている。駅舎中央のみが残されて横の方はガラス張りで見えなくなっている。

さて、ホテルは？地図で見当はついているので真ん前のはずであるがと思い目を凝らすとネオンとネオンの間に看板が見えた。早速チェックインする。フロントの狭いこと！まともにロビーも無い。どんな部屋かとあがると思ったより良かったです。

すぐに充電を開始し、洗濯をする。トイレに座るとトイレットペーパーが無い！さすがこんなのは初めてであった。ニュースとメールのチェックに返信を済ませて着替えて夕食へ出かける。

すぐ隣のレストランを覗くとメニューがわかり易そうなので入った。日本語のメニューも有りますと書いたフランス語のメニューが出て来たので「ジャポネ」と言ったつもりでしばらく待つが持ってこないでそのままスパゲッティとビールを頼んだ。17ユーロの夕食だった。まあまあかな？

デザートは頼まずにホテルの窓から見つけていたスーパーマルシェ？へ行きアイスクリームとジュースを買ってホテルに戻る。忘れずにフロントでトイレットペーパーをもらって。テレビを見るとアメリカのTVドラマが有っていたが意味不明を見るよりPCで日本のニュースでもと思い見始めるがネットのスピードが遅く駒落とし状態ですぐに寝てしまった。

9月13日（木曜日）

3時半過ぎに目がさめたが意外と静かで外を見ると小雨が降っているではないか。日記をつけ、PCでメールチェックと日本のニュースの残りを見る。しかしニュースは昨夜と同じ状態で駒落としのようになかなか進まないのですぐに諦めた。

ゆっくり荷物の準備をして、7時30分を過ぎたので出かける。朝食はどうしようかと考えてホテルを出ると、隣がパン屋さんで覗くと座ってパンを食べている人がいるので早速入り込む。

パン二個とカフェオレとで5ユーロ少々。前日のホテルでの長所が8ユーロは妥当なものだったのだ。朝のパン屋さんは結構お客さんが多い。売っているフランスパンの長さが1mは有りそうでびっくりした。

歩いて東駅に行き、そこから地下鉄7番にて集合地のギャラリーラファイエット前に向かう。出口を出ると多数の日本人が集まっている。それらしき人に声をかけると同じ時間帯にいくつもツアーが集まっているようでほかの女性に声をかけるように言われた。次々に人が集まって来るので感心した。

結局担当の方は高橋さんという男性の方だった。彼はミュージアム社から委託を受けた方だったが何と大正解！元モンサンミシェルに学芸員として勤務していたフランス文学部卒のフランスの考古学？の学者さんだった。おかげでガイドブックには無い、また記載は間違いですと言った内容の説明を受けた。また島内でも公開場所はすべて回ってくれて説明内容のすばらしかったこと、島内の観光時間も予定が遅れているのにきちんと説明をしてくれた。もし、モンサンミシェルに行くならガイドさんとして指名してお願いしたいものだ。



ほどおいしくなかった。

無料のシャトルバスにて島へ渡って解説が始まったのが14時を過ぎていた。それからくまなく島の中を回って案内されたが至る所で現地の方と挨拶をされていた。さすがもと職員である。

確かに歴史ある島で建造物が様々ありロマネスクだー、ゴシックだーと説明が続いた。階段を上り詰



めた最上部からの景色はきれいであった。イギリスは見えないとのこと。島の周囲が堆積物ですっかり埋め尽くされて島ではなくなりつつあった。それで洪水の可能性もあるとのことと島との道路になっている堤防を崩して橋に架け替える工事があるのだ。写真は何となくいっぱい撮ってしまった。

17時半に帰りのバスが出発、ほぼ予定時間に集合出来た。帰路はパリとの中間あたりの村で夕食である。直行でパリに帰っても22時になるのでそれから夕食をとるよりもこちらの方が良いと思う。

19時前に到着、歴史ある村で建物がレンガと木材を組み合わせた様式で多数残っている村だった。夕食はチーズが前菜で鴨料理とデザートを食べたがこちらはおいしかった。

その後また3時間近くかかってパリへ戻るが途中高橋さんからの説明を聞きながら居眠りをしていた。着いたのは23時すぎで運行間隔がのびた地下鉄でホテルに着くと24時で、すぐに充電を始め、シャワーを浴びて、PCでは日記を付けること無くメールチェックのみを済ませて寝る。

9月14日（金曜日）

最後のSLを訪ねる予定日である、昨夜は遅かったのが6時の目覚まし競ってだったが5時前に目が覚めた。日記を付けることにする。昨日は全く付けていないので6時過ぎまでかかった。洗面を済ませ、荷物を整理して6時40分にホテルを出る。

今日は目の前の北駅発なので駅にはすぐに到着、座席がフルといわれたら7時1分発に乗るので早くにやって来た。しかし、予定の7時46分発のTGVの指定席を買うことが出来て9ユーロで初めて1等席になった。コーヒーショップでパンとコーヒーとで5ユーロ少々。椅子に座ってパンを食べながら日記を記入して時間をつぶす。

フランスは列車のホームをなかなか案内しないのが困る。ほぼ毎日同じパターンで運行しているのだから発着の番線は決まっていそうなものなのに発車間際まで表示されない。従って多くの乗客が発車の掲示板を見上げている。よく見る風景である。

で、7時46分発の TGV も例に寄って表示が遅く、番線が表示されると一斉に乗客が動き出した。この列車はリール行きと私が行く Boulogne Ville 行きが併結された20両の列車なので前か後ろかの確認が必要である。

2編成の間まで行くと車掌がいたので尋ねると後方の編成とのことで後戻りして今回初めての一等車に座る。結構込んでいる。

定刻に何の合図も無くなく発車、しばらくゆっくりであるすぐに郊外に出てしまいスピードを上げる。小さな凹凸のある丘陵地帯を走るが両側ともに耕作地帯である。ただ、ぶどう畑が無いのが北にやって来た証であろう。

結構なスピードでリールヨーロッパに到着、ほとんどの乗客が下車した。その後もカレーまでは新線を走るのでスピードは速い。カレー駅で在来線の駅に着き、その後は折り返して発車した。海岸線沿いを走る路線ではあった実際に海が見えたのは数分間だけであった。

Boulogne Ville 駅にほぼ定刻に到着、しばらく待って鈍行列車にて今日の目的地 Noyelle-Sur-Mer に10:49到着したが直前に狭軌の線路が見えた。駅前に出ると蒸気列車が止まっていない！！

列車が止まっていないのでてっきり今日は運行されないのだと思った。なぜか調べて来た列車時刻の確認もせずに思い込んでしまった。あきらめて帰路をどうするかを考える。時刻を調べると行くも帰るも全く列車が無いのだ。小さな駅で快速列車は通過なのだ。

次の駅 (Abbeville) まで行けば早くパリ方面へ戻れそうなので駅員さんがいたのでタクシーを呼んでもらった、よりに寄って2件目にて30分待ちで予約できたのでほっとしたら、駅前で何か音がするではないか！飛び出ると蒸気機関車が止まって、機関車の入れ替えをしていた。

アチャー！！！！あわてて駅員さんへタクシーのキャンセルを頼み「ウイ」と言ってもらったので平身低頭し駅舎を飛び出した。すでに機関車は先頭につながれており車掌に乗車を知らせて乗り込んだ。この時点ではチャーター列車では無かろうかと思っていた。



のんびりしたスピードで Saint Valery sur Somme へ向かう。車窓から身を乗り出して撮影するが曇天で風が強く寒いこと、我慢して撮影を続けた。終点 Saint Valery sur Somme に着くと団体客がたくさん降りたが待っていた乗客が手に切符を持って乗り出した。

これでやっと定期列車で私が勘違いをしたのだと確信。乗車券を買いに切符売り場に行き（車中では車掌が検札に来なかった）Le Crotoy までの往復切符を購入した（つもり）。



この間に機関車の入れ替えを撮影している。帰路も風が強く、寒い中がんばって撮影するが最終便まで我慢できないな一、と思った。取りあえず Le Crotoy まで行き、折り返し迄2時間あるのでその間に昼食を食べてその後の行動を考えることにする。

Noyelle-Sur-Mer で折り返して、LeCrottoy に着くと霧雨も時々降るようになった。乗客の多くが進む方向に付いてゆくと海岸沿いにレストランが並んだところに出た。早々に一軒のレストランに入り9ユーロの定食を頼む。



セットメニューで上の段（前菜？）は3種類の選択項目が有って真ん中にメインかな？と思わせる名前が書いてあり、デザートは2種類を選択するように書いて有るように思えた。その中で前菜？にムール・・・とデザートにはアイスクリームを頼んだ。何が出てくるかと思っていたら深い皿に山盛りのムール貝が出て来た。

それにジャガイモのプリッツが出て来たのがこれは前菜についているのだからすごく易いなーと思ってムール貝をばくばく食べた。メインは何だろう！と期待して食べ終わって待っていると皿が下げられて出て来たのがデザートのアイスクリームだった！つまり選択できないメインかなと思っていたのはプリッツだったのだ。

少々がっかりしたがムール貝はおいしかったとたくさん食べられたので満足であった。食べ終わって街中を抜けるとムール貝の写真を載せたレストランがいっぱい有ったのでこの地の名産なのだろう。

寒いし時々霧雨も降るので駅に戻る。が、駅舎が開いていないので風下で待つことしばし。ほかの乗客も同じところで待っていたが時間になってもなかなか開かなかった。駅舎が開くとすぐに列車に乗り込み機関車が待機場所から出て来るのを待つ。

ゆっくり待機場所から出て来る蒸気機関車を撮影して乗車。定刻には発車しないがそれでも発車直後に



遅れて来た乗客がいた。Noyelle-Sur-Mer まで車中から撮影しながら戻り、駅に着くと折り返しの発車風景を撮ろうと構内を引き返し、少々高台に三脚を据える。今度の発車は機関車が正位なのできれいに撮りたかった。

無事に撮影終了、機関車が隠れるまで撮影して今回の蒸気機関車の撮影は終わりとする。

国鉄駅に入り、Amiens 行きのホームで待っていると老人夫妻がやって来て迷っているのが解る。尋ねても言葉は解らないがな一、と思いながら身を乗り出すと声をかけられた。「Amiens 行き？」と尋ねるとそうだ、というのでこちらこちらと教えたがあまり信用していないようだった。

Amiens 行きは定刻にやって来たが混雑していた。Amiens では乗り換え時間があったので駅前に出てみると世界歴史遺産の大聖堂が近くに見えたが訪問する元気がなかった。この駅でも出発時刻がマジかなるまで出発の番線が表示されない。列車の種類からのこの列車のはずだよなーと思っていた列車の番線が結局表示された。一等車に乗って帰路につく。

車内は一等車が結構込んで来たので驚いた。発車後は日記を付けながらすがすがしい外の景色は本当に相も変わらずの丘陵地帯が続いていた。列車はインターシティなので停車駅が少なく、車両も古いがそれなりに静かで快適であった。

北駅に無事帰り着きすぐホテルに戻り、荷物を置くとすぐに夕食に出かける。駅構内のレストランでめばしいお肉の写真を見つけたので入ったがひどかった。

料金があまりにも易すぎる、ワインを250ml飲んで12ユーロ少々。しょうがないので諦めて食べ終えた。ホテル横のケーキ屋さんに寄ってケーキを二個買って帰る。贅沢のつもり、おなかがいっぱいになった。

日記を書き終え、シャワーを浴びて荷物を片付けて就寝とする。今夜が最後、明日は帰国である。

9月15日（土曜日）

5時すぎて目が覚めた。だんだんこちらの時間になれて来たら帰国である。今日は早起きが出来たので多数の候補の中から最も遠い Nancy へ向かう予定でホテルを出かける。マカロン発祥の地とのことでマカロンを買って帰ろうかと思う。荷物の整理を済ませチェックアウトを6時半過ぎに済ませた。もちろん大きな荷物はフロントに預けておく。

東駅では切符売り場が解りにくかった。Nancy 行きを求めると今日はいっぱいで片道51ユーロの追加でないと7時13分の列車に乗れない、しかも帰りも込んでいて同様であるとのこと。で、諦めて次候補の Reims（ランス）に向かうことにした。何せ15時にはパリに確実に戻って来たいので遠くには行けないのだ。

こちらも往復それぞれに16ユーロの追加で一等車にて往復となる。なんと25番線からの発車となるがホームの数の多いこと！

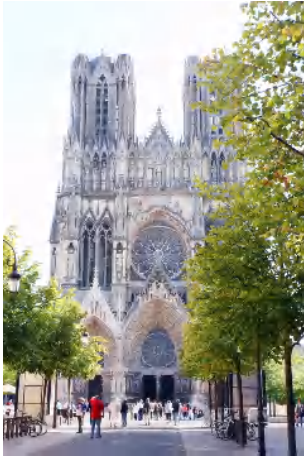
乗車すると混でもいないのに隣の席には女性が居て、東洋人だが日本人とは違うよなーと思いながら話しかけると中国人でフランスにて仕事とのこと。英語での会話となるがランスと言わずエイムと言っているように聞こえたのでどこの事かわからなかった。本の地図を見せて了解した。ランスの美術館巡りに行くようで本日、9月の第3土日は美術館がフランス中で無料だと一所懸命強調していた。

定刻に出発する。市内を抜けると例に寄って丘陵地帯を延々と走る。景色の変化に乏しいものだ。東駅の次がランス駅である。中国人と一緒に降りるとフォローミーと言ってインフォメーションを教えてください。感謝！

インフォメーションで日本語の地図（なんと有ったのだ）をもらって市内へ向かうが、「地球の歩き方」では駅の北側に街が有るように感じるが反対で駅の南側に街が有るのだった。「地球の歩き方」の地図表示はしばしば誤解しやすい方角で掲載されている。



まずは目印のノートルダム寺院を目指す。取りあえずはその前を通りすぎてサンレミ大聖堂を目指す。15分ほどで到着、バスで行くまでもない。一回りするが明らかに入り口と思えるのが無い！物乞いさんが立っているところが入り口であった。中は誰もいない！遠慮なく撮影するがさすがに荘厳ではあった。



横にあるサンレミ博物館を覗きたかったが何と14時から、では行けない。ノートルダム大聖堂に向かう。さすがにすごい！！ゴシック形式の建物でステンドグラスもすばらしい。さすがに観光客がいっぱいいた。早々に中の写真を撮って廻る。

本日は折角の美術館が無料の日なのでノートルダム寺院のすぐ横にある美術館を覗く。藤田画伯の大きな絵画が数点飾ってあったが早々に見物を終え昼食へ向かう。早め早めである。この地は有名なシャンパンの産地の中心地であるが牛肉の産地の様でレストランに牛の絵を描いたのが数軒あった。

で、昼食は肉！と決めてレストランに入る。200gのリブステーキにグラスシャンパンにドルチェで32ユーロだった。今回最も贅沢な昼食だった。お肉は堅いがまあまあおいしかった。

50数分発のつもりで早めに駅に向かったつもりだったが43分発で少々びっくりした。またしても思い込みである。ホームに出ると向い側のホームに蒸気機関車が展示してあり、こちら側から写真を撮った。

Remesを定刻に発車、一路来た道を東駅へ戻った。ホテルへ戻り荷物を受けて取ってRERで空港へ向かうことにする。自動販売機で切符を購入するが種類の切符を販売しているので内容を良く確認しないと無駄になる。

空港行きが来ないな一と思ってTVの掲示をみていると本日は大きな工事のためにCDG行きは運行していないのでMitry Claye行きでそこからバスで空港へ行くことと案内されていた。

きわめて混雑したMitry Claye行きに乗車、パリでもこんなに混むのだと思っていてふっと気がついて財布を触ると無い！！何度触っても無い。しかもお腹に着けているバッグのチャックも開いている！また右の前ポケットの小銭入れも無い！

結局財布とアイホンとフランスレイルウェイパスに小銭入れが盗られていた。きわめて幸いにパスポートは残っており、左の前ポケットに入れていたドコモの携帯が残っていた。すぐに日本に電話、アイホンの通話を止めるとともにクレジットカードの使用停止をしてもらう。ちゃんとカード番号の控えと連絡先の一覧表を作っておいたのだ。

クレジットカード使用停止時には異常な使用歴は無いとのことでカード狙いではなくパスポート狙いでは無かったのだろうか？キャッシュ狙いなら財布だけ盗るだろうから。

パスポートはお腹のバッグに入れていたのだが幸いに少々窮屈な場所に入れてあったので容易に盗られなかったのだろうが同じ場所に入れておいたフランスレイルウェイパスは無くなっているのだから。よかった！！

暗い気持ちでRERの電車からバスに乗り継ぎ空港に到着、空港内の無人のレールウェイを使って第2ターミナルに移動さらに歩いてEエリアに到着した。途中走って移動する人たちも居た。移動時間は思いがけずホテルを出てから2時間近くかかったが早めの移動開始で慌てずに大韓航空のカウンターに到着。無事にチェックインが済み、帰国できるのが確認出来たのでほっとする。小額のお金は別にあるの

で飲み物程度は購入できるが帰国後の自宅までの交通費が無いのだった。

出国手続きが終了してゲートにて17時20分の搭乗開始を待ったが搭乗開始時刻が25分、30分、45分と遅れついには55分搭乗開始予定で出発時刻も20時20分となった。55分の搭乗開始で早々に乗り込み出発を待っていると20時15分に大韓航空の777が横のゲートに到着した。

20時20分を少々過ぎて機体が動き出した。早い時間の出発なので離陸後しばらくは下の景色が楽しめるかと思っていたら30分もすると雲の上になってしまい何も見えなくなった。

その後は食事やビデオで映画を見ながら過ごす。無理に眠らず起きていずで過ごすのが意外と眠らないものだった。朝食のサービスではどういう訳かメインの料理が来ないままで終わってしまった。

日記の記載とビデオを見ながらインチョン空港に到着する。11時57分着陸。トランジットは混んでいて長い列が出来ている。無事に KAL ラウンジに移動しパウンドケーキを食べ、コーヒーを飲みながら約一時間日記の追加して過ごす。

14時20分に福岡行きが出発、台風の影響で風が強くシートベルト着用が頻発であったが無事に雨の福岡空港に着陸。お金が無いのでタクシーにて家へ帰る。17時前には無事に帰り着けてほっとするが早速新飯塚駅前の交番へ免許証の再発行に必要な遺失物届けを出しにバスで出かけた。

しかし、帰り着いた夜の11時半には患者がやって来た。9日間遊んできたので来年の休みを目指して頑張らなくては！